

住ま

*...二世帯住宅

核家族世代が二世帯住宅を考えると、お互いに拘束をしない、でも一緒にいる喜びを分かち合いたいと思うようだ。完全分離の二世帯住宅が多くなり、アプローチから分けて「隣居・近居」に近いスタイルが目立つようになった。

二世帯住宅へのリフォームでは、親、子それぞれが暮らしに求めるものの違いをはっきりさせることが大事だ。写真のお宅のインテリアを見て求めていたものの違いが一目瞭然だ。どんな二世帯住宅にするかを話し合えば、互いのテイストが加わり、親世代のデザインへの関心も高まり、わ

Let's リフォーム

西田恭子

それぞれのテイストを明確に

家がとしての満足感がそれぞれに深まっていく。

完全分離型の二世帯住宅の場合、庭や周辺環境を含めて明確に分けられる。プランニングを心がけている。その場の管理者がはっきりわかれば、植木屋の費用の負担者を悩むこともない。

リフォームでは親の住む実家に子世帯が入る場合、1階の庭は親世帯の管轄、

2階はルーバルコニーにして子世帯の庭代わりの空間とするという。庭は孫との接点となるが、親世帯には大事にしている植栽があり、子世帯も、毎日服を泥だらけにされては閉口するだろう。

子世帯専用の外部空間があれば、使い方にもおのずとルールができる。

新設の子世帯に比べ、親

世帯はさほど手を入れずとも暮らせるが、スペースが減り、工事の騒音に耐えるばかりではストレスがたまる。この機会に自分なりのテイストでクロスを貼り替えたり、老朽化してきた設備を入れ替えたりと、主体的に取り組めば、気分一新、満足度の高いリフォームとなる。



①親の玄関



②子の玄関



③親の居間



④子の居間

ムとなる。

完全分離なんて水くさいと思われるかもしれないが、数年前に息子さん夫婦との二世帯にしたお宅を訪ねたところ、とてもいい関係を築いていらした。奥様曰く「赤ちゃんが泣いていても『どうしたの？』と行かないようにしている。よほど泣きやまず助けがいらそうなら、まずはメールをする。自分が同居していたとき負担を感じたことはしないよう気を付けている」と。よい関係はプランや壁の有無ではなく、こうした思いやりの積み重ねで築いていくものなのだろう。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、一級建築士)